

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 5月1日

今日の市は昨日とは打って変わって、冷たい雨の中だった。気温が上がらず上着が必要な陽気だ。土場を見回すと季節は関係なく計画通りに生産する国有林材と南牧村から出てくる材が少しある位だった。

今年は材の水揚げは早いだろうと考えてはいるが、出てきている材を見る限り、まだ本格的に水揚げは始まっていない様で、樹皮はしっかり材に張り付いている。

確かに標高の低い地域では、一気に各種の花が咲き春が押し寄せているが、ある程度標高が高くなると、まだ冬枯れをかき分けて草の新芽を見つけられる程度だ。

例えば榛名神社では、10種を超える花々が順番を待たずに一斉に咲いているが、榛名湖畔まで上がるとまだ冬枯れの景色と言った具合だ。

こうなると、心配されていた虫害も、少し先になりそうで、今日の買い方の話の中では今日の寒さも手伝って、「虫はまだ卵で居るんじゃないか？」などと言う冗談とも期待とも取れる言い回しが飛び出した。

確かにこの寒さと材の姿を見ると、虫はまだ孵化していないんじゃないかと思える。

しかし今年は春めいたと思っている内に、一気に季節が進み初夏になる傾向がる。

だから木が立っている状態なら、眠っているはずの虫が伐採と同時に活性化し材の中に向かって潜り始める。やはり伐採を始めたら急いで工場なり、市場なりへ搬出し間違っても山土場で長い時間搬出を待つような事はしてはならない。

梅雨が明けて、真夏の炎天下になれば、もう虫は活動できなくなる。つまり虫害が止まる季節は最近の真夏の殺人的な高温なる次期迄である。

今の時期市場に出荷が少ないのは、この時期を避けての事なのか？ それとも山土場での待機を余儀なくされているのか？ 前者であってほしいものだが、後者の場合は今ドンドン価値を失っている最中と言える。

今回の市も不落札が多く出た。という事は札は入っている訳だ。ただ既に”日持ちのしない材”と見なされてあまりにも安い札が入っている。市場の方も最低基準を設けて単価を引き上げる交渉し折り合いの付いた物件は、再入札で売れてゆが、折り合いが付かなかった物件もこの時期はそう悠長に粘る訳にも行かない。

また買い方の方もすぐに使う分だけ買う。”当用買い”になる傾向の季節に入る。

不落札の中で、カラ松の3.0mが出ていたが、論外だ。今の木材需要の中で何に使うのか私にも判らん土木用で地盤補強の杭に使った時代もあったが、今はそんな工法は無い。

今伐っている材が、何に使われるのか、全く考えられずに伐られている典型的な例だ。勉強すべし！

調査日 素材生産協同組合 5月10日

こちらの市も特別な動きは無い。 国有林の出荷はまだ始まっていないので、入荷は少なめの様だ。 ただ帰り際に池田運送と唐沢運輸が、それぞれヒノキの中目材を1台ずつ搬入するのであった。

市の方はおなじみの買い方が、それぞれの必要なものを落札してゆく、至って平穏な様相だが入札金額についてはなかなか厳しい状況の下ではじき出している様だ。

世の中は物値が上がってゆく世相の中で、人々は経済の閉塞感がほぐれてゆくのを感じている様で、危機感よりもデフレからの脱却に希望を感じているかに見える。

しかし木材業界にフォーカスすると、円安が様々な形で影響している様だ。

まず住宅機材など様々な物が値上がりし、また輸入木材も値上がりしている。

この何もかもが値上がりしている状況の中で、国産木材には値下げ要求が強まっていると言う。

輸入材は商社が輸入し、この時点でスタートの金額が決まっている。 過激な円安の中で、このスタート価格は決して安くはない。

これに対して国産木材は、山土場ではまだ具体的な金額はついていない所から始まる訳だ。 もちろん、山土場に並び出荷するまでのコストは掛かっているが、具体的な金額に直接結びつくものではない。

ここで元値に縛られる経済活動の中で流通する輸入木材との違いが、国産木材に詰め寄ってくる こう言ったカラクリで諸物価が値上がりする世の中で、国産木材には逆方向のバイアスが発生している。

国内で流通する国産木材は円安と言っても価格には反映せず、コストだけが上がる。

こうして国産木材は圧迫されてゆく。

株式市場では円安の影響で輸出関連企業の業績が押し上げられ、国内では物価の上昇も浸透して株価は3年連続で過去最高を更新する見通しだそう。 これが好景気なのか？

輸入材の値上がりが連動して、木材価格全体に反映すれば良いのだが、小さな住宅が好まれる 昨今では、建築費用までは、値上がりが及ばない様だ。

また最近大型の木骨構造の建前を見かける事がある。こうなると横架材は輸入材に頼るか 更に大きな物は集成材を使うかない。 今回の市でも集成材の業者が元気な様だ。

集成材の木骨構造とは、在来の仕口・継手などは一切使わず、部材の継ぎ手は分厚い鉄板と沢山の太いボルトで繋ぐ。横架材も前出の鉄板で繋ぎ、太い鉄筋を弓のように張ることで強度を補填している。 強度計算がし易いから、いくらでも大きな建物が出来る。誰にでも出来る方法で… 言葉で言えば”木造ビル”と言う言葉まで聞くことがある。